

平成 25 年度
第 1 回 区民モニター報告書
「地域福祉及び地域保健に関するアンケート」



此花区マスコットキャラクター

このはちゃん

平成 2 5 年 9 月実施

大阪市此花区役所総務課（総合企画）

も く じ

【Ⅰ】調査の概要

- 1 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 調査の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 区民モニターの定数および回答者数・・・・・・・・・・・・・・ 1

【Ⅱ】調査結果について

I 地域福祉について

- 1 あなたは、介護（高齢者の方のお世話）に関わったことがありますか。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 高齢者の方々を支援する機関として、地域包括支援センターが此花区内に2カ所設置されていることをご存知ですか。・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 障がい者相談支援センターが此花区内に設置されていることをご存知ですか。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4 平成24年10月1日に障害者虐待防止法が施行されたことをご存知ですか。
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 5 地域における福祉の取組に関心がありますか。・・・・・・・・ 10
- 6 此花区では、地域福祉に関して、地域で話し合いや取組みが行われていると思いますか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 7 あなたのまわりに「虐待かもしれないと思われる子ども」がいたら、どこに連絡されますか。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 8 児童虐待ホットラインをご存知ですか。・・・・・・・・・・・・ 15

- 9 平成 24 年度から、此花区では児童虐待防止や予防に関しての「講演会」や「子育て学習会」を開催するなど、児童虐待防止に取り組んでいます。開催にあたり、平日または休日、どちらが参加しやすいですか。…………… 1 6
- 1 0 今後、「児童虐待防止の取組み」の実施にあたって、どのような実施内容であれば参加したいと思いますか。…………… 1 8
- 1 1 此花区では、子育てを支援するために様々な事業を行っていますが、今まで利用したことがある事業は次のうちどれですか。…………… 2 0
- 1 2 地域での子育てサロンについて、どのようなことを期待しますか。
…………… 2 2

II 地域保健について

- 1 あなたは、ご自身の健康管理に気をつけていますか。
…………… 2 4
- 2 あなたは、ご自身の健康状態を主にどのような方法で把握していますか。
…………… 2 6
- 3 健康づくりのために、具体的に取り組んでいる（心がけている）ことは何ですか。
…………… 2 8
- 4 区役所が実施している「このはないきいきポイント事業」をご存知ですか。
…………… 3 0
- 5 区役所が実施している、健康体操「あしたも笑顔」をご存知ですか。
…………… 3 2
- 「地域福祉及び地域保健に関するアンケート」…………… 3 4

【 I 】 調査の概要

1 調査の目的

大阪市では、福祉分野に関して、市政改革プランにもとづき、自律した自治体型の区政運営を推進しており、その取組の一環として、各区が抱える福祉課題の解消や地域資源の循環を実現し、区長による「ニア・イズ・ベター」を迫及した個性あふれる福祉分野における区政運営を推進しています。また、健康分野に関して、「全ての市民がすこやかで心豊かに生活できる活力あるまち・健康都市大阪の実現」を基本理念に掲げ、健康増進計画「すこやか大阪 21」を策定しています。

此花区においては、区内の基礎自治に関する施策や事業を、区や地域の事情・特性に即して総合的に展開する中で、地域に密着した福祉の充実、健康でいきいきと暮らせる環境づくりをめざし、保健福祉に関する地域に密着した様々な取組を行っています。

今回は、地域福祉及び地域保健に対する区民の現状や意識等を把握し、施策・事業の企画立案・運営に係る基礎・参考資料とするため、平成 25 年度第 1 回此花区民モニターを実施します。

2 調査の実施状況

調査期間：平成 25 年 8 月 23 日～平成 25 年 9 月 6 日

方 法：郵送及び電子申請アンケートシステム

対 象：区民モニター登録者（406名）

回 答 数：351票（なお、各質問の有効回答をn=351と表記する）

回 答 率：86.2%

3 区民モニターの定数

		区民モニターの数			回答者数		
		男	女	計	男	女	計
計		175	231	406	149	202	351
年齢別	29歳以下	11	32	43	7	22	29
	30歳代	36	61	97	28	47	75
	40歳代	40	44	84	32	41	73
	50歳代	34	32	66	30	30	60
	60歳代	33	35	68	32	36	68
	70歳以上	21	27	48	20	26	46

参考：各設問のnについては、回答対象者、【 】については回答数です。

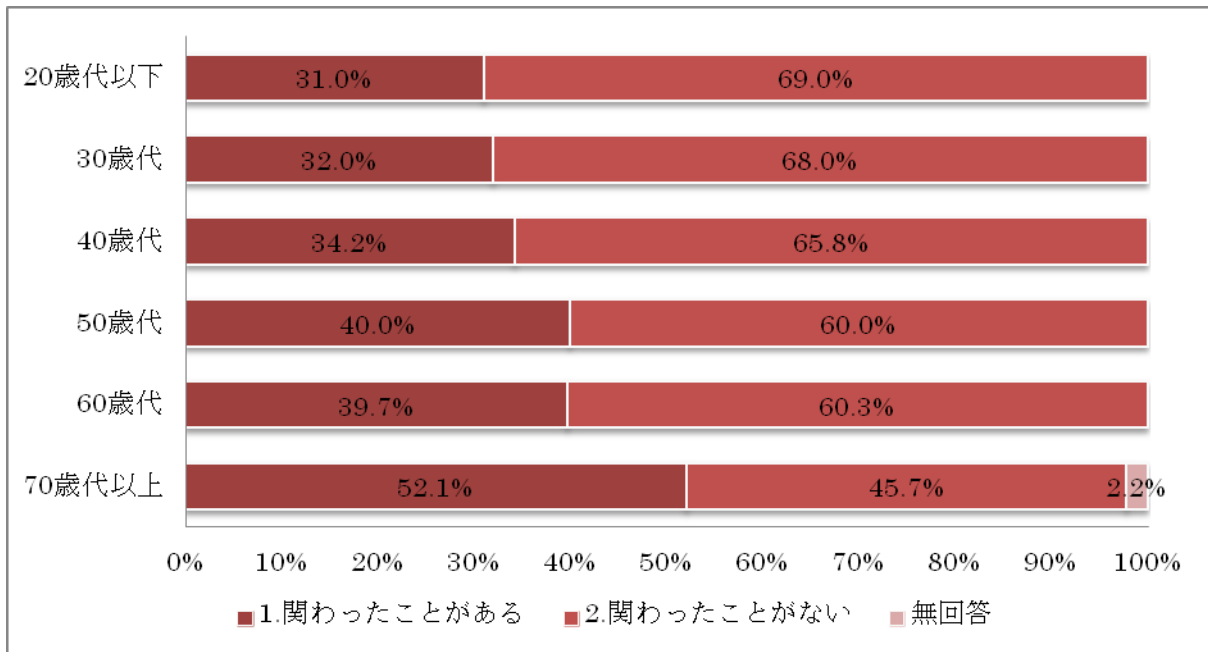
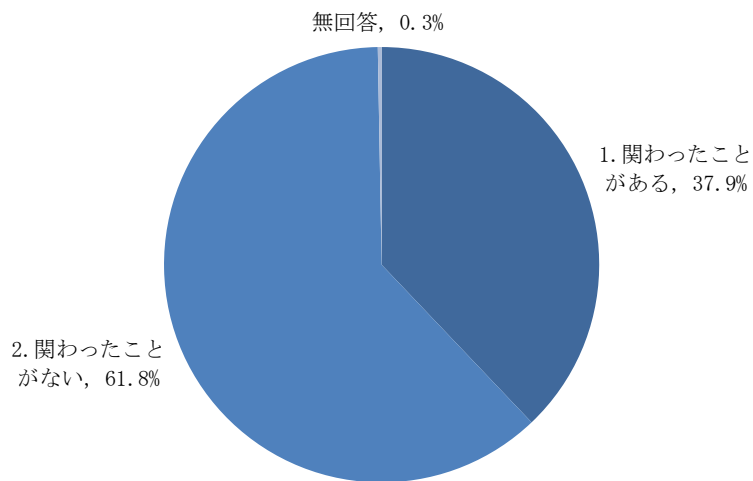
【Ⅱ】調査結果について

I 地域福祉について

問1 あなたは、介護（高齢者の方のお世話）に関わったことがありますか。

1. 関わったことがある	37.9%	【133】
2. 関わったことがない	61.8%	【217】
無回答	0.3%	【1】

n = 351



【分析・コメント】

「関わったことがある」（37.9%）と回答された方は「関わったことがない」（61.8%）と回答された方を下回っています。

また、年齢層毎に回答状況を見てみると、「関わったことがある」と回答された方の割合は、70歳代以上（52.1%）が最も高く、年齢層が下がるにしたがって割合が低くなる傾向があります。

[60歳代 (39.7%)、50歳代 (40.0%)、40歳代 (34.2%)、30歳代 (32.0%)]

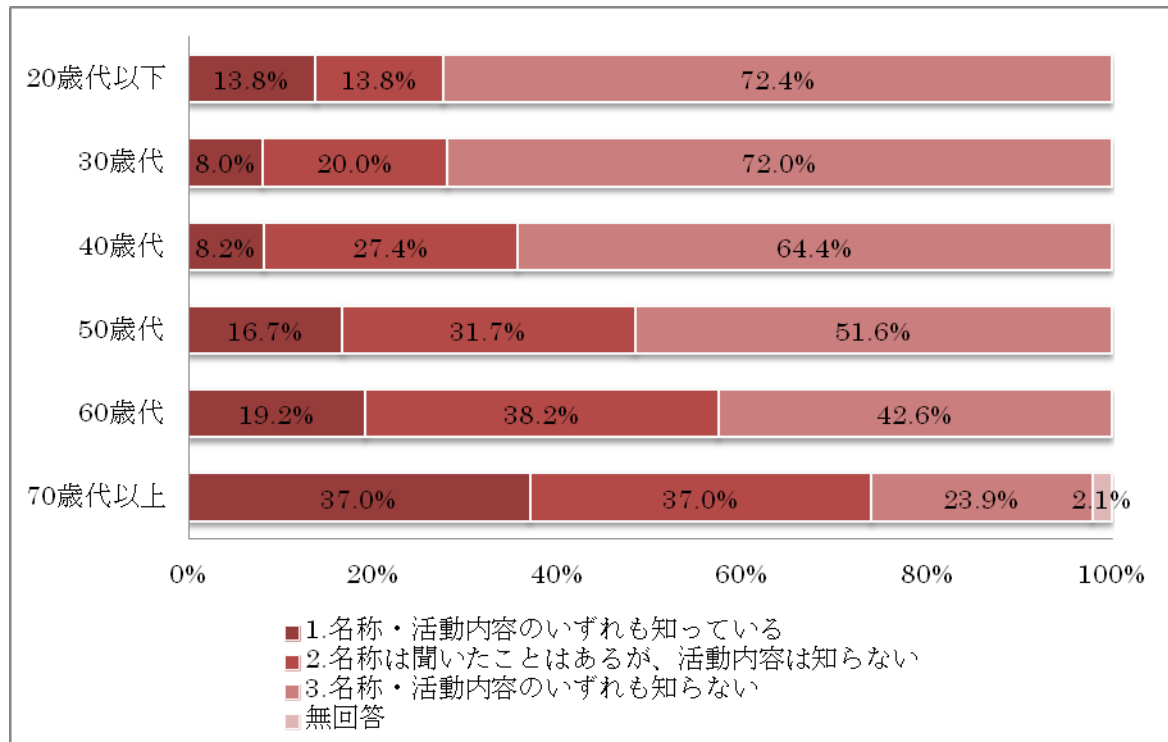
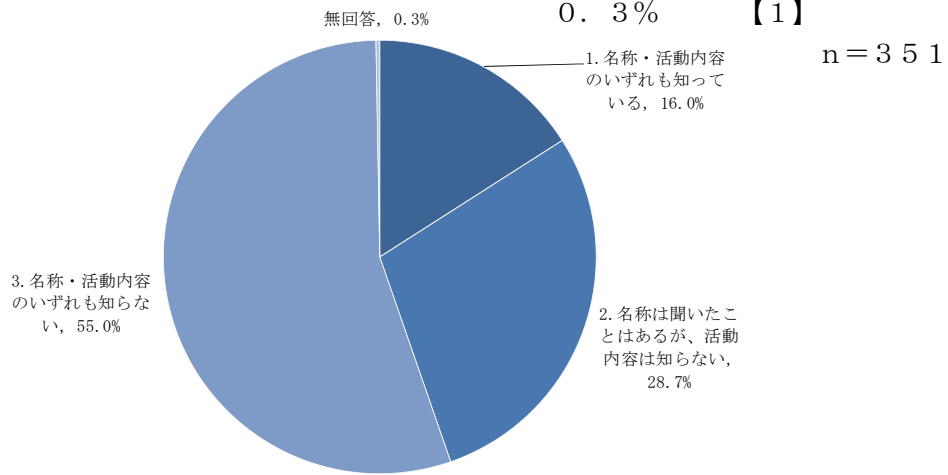
この結果から、年齢層が上がるとともに親や配偶者等の介護経験にともない介護に関ったことがある割合が高くなる傾向にあります。今後、高齢化が進む中、同割合がますます増加することが予想されます。

問2 高齢者の方々を支援する機関として、地域包括支援センターが此花区に2カ所（※）設置されていることをご存知ですか。

（※）地域包括支援センター…地域包括支援センターは、地域で暮らす高齢者の方々が住み慣れたまちで安心してその人らしい生活が続けられるよう、さまざまな関係機関と協力しながら、高齢者の方々を支援する機関です。

◆此花区内の地域包括支援センター(2カ所)… 此花区地域包括支援センター(此花ふれあいセンター)、此花区南西部地域包括支援センター

1. 名称・活動内容のいずれも知っている	16.0%	【56】
2. 名称は聞いたことはあるが、活動内容は知らない	28.7%	【101】
3. 名称・活動内容のいずれも知らない	55.0%	【193】
無回答	0.3%	【1】



【分析・コメント】

「名称・活動内容のいずれも知らない」(55.0%)と、「名称は聞いたことはあるが、活動内容は知らない」(28.7%)を合わせると、8割以上(83.7%)の方が内容を知らない傾向があります。

なお、「名称・活動内容のいずれも知らない」について年齢層毎に回答状況を見てみると、20歳代以下のうち72.4%を占め、年齢層が上がるにしたがって「名称・活動内容のいずれも知らない」割合が低くなる傾向があります〔30歳代(72.0%)、40歳代(64.4%)、50歳代(51.6%)、60歳代(42.6%)、70歳代以上(23.9%)〕。

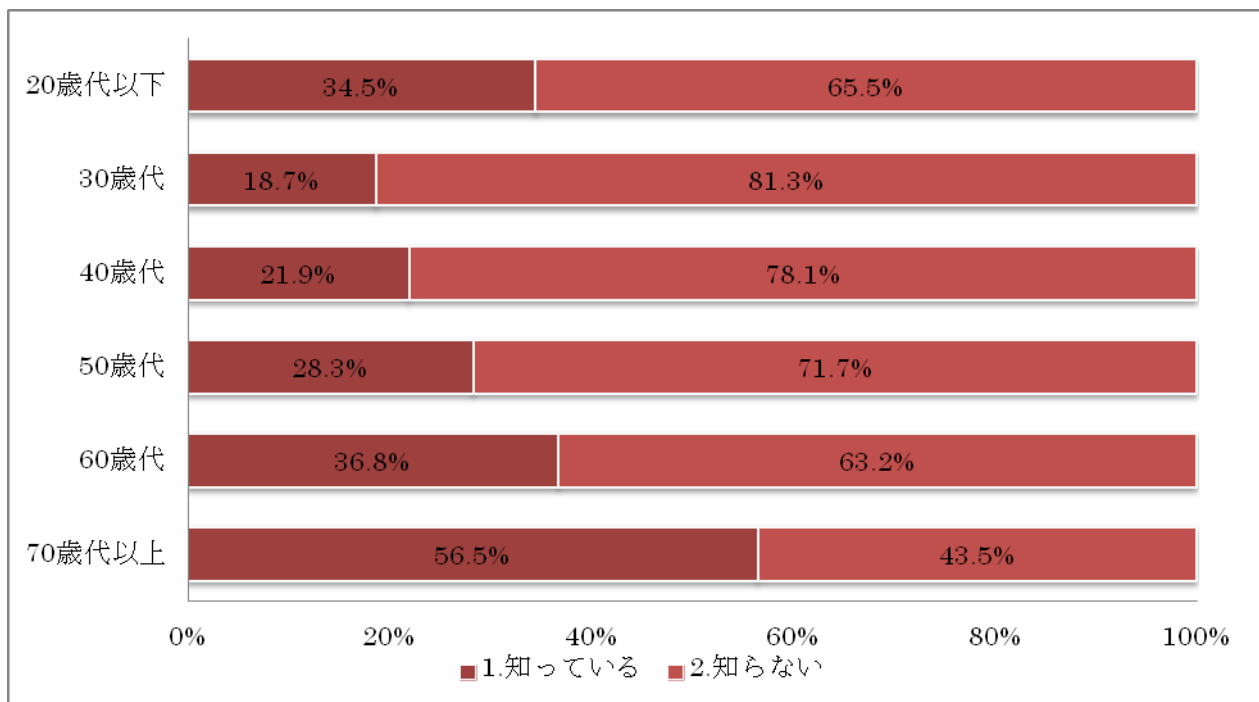
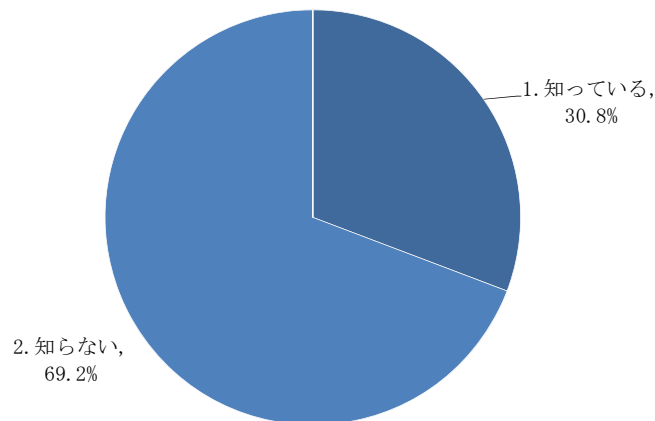
この結果から、今後、60歳代以下の世代への地域包括支援センターに対する認知度を高めるための啓発方法等の検討が必要であるといえます。

問3 障がい者相談支援センター（※）が此花区内に設置されていることをご存知ですか。

（※）障がい者相談支援センター…障がい者相談支援センターでは、障がいがある方やその家族等の地域における生活を支援するため、福祉サービスの利用援助等、専門機関の情報提供を行っています。また、障がい者虐待に関する通報届出の窓口や、地域に密着した居宅サービスのための中心的な役割を担い、支援事業所等の後方支援等を行っています。

- | | | |
|----------|-------|-------|
| 1. 知っている | 30.8% | 【108】 |
| 2. 知らない | 69.2% | 【243】 |

n = 351



【分析・コメント】

「知らない」(69.2%)と回答された方が、「知っている」(30.8%)と回答された方を大きく上回っています。

なお、年齢層ごとに見てみると、70歳代以上では、「知っている」(56.5%)と回答された方が、「知らない」(43.5%)と回答された方を上回っていますが、その他の年齢層では、「知っている」と回答された方が、「知らない」と回答された方を下回っています〔60歳代(36.8%と63.2%)、50歳代(28.3%と71.7%)、40歳代(21.9%と78.1%)、30歳代(18.7%と81.3%)、20歳代以下(34.5%と65.5%)〕。なお、「知っている」と回答された方の割合は、60歳代から30歳代まで、年齢層が下がるにつれて低くなる傾向があります。

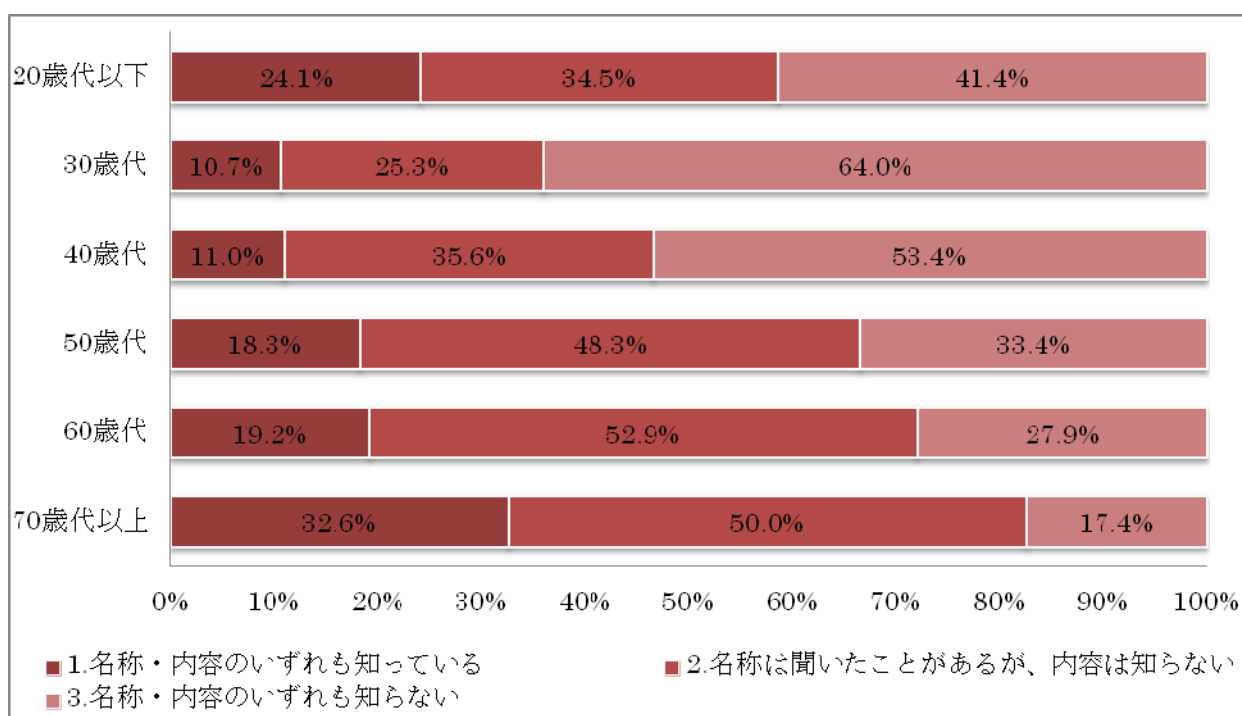
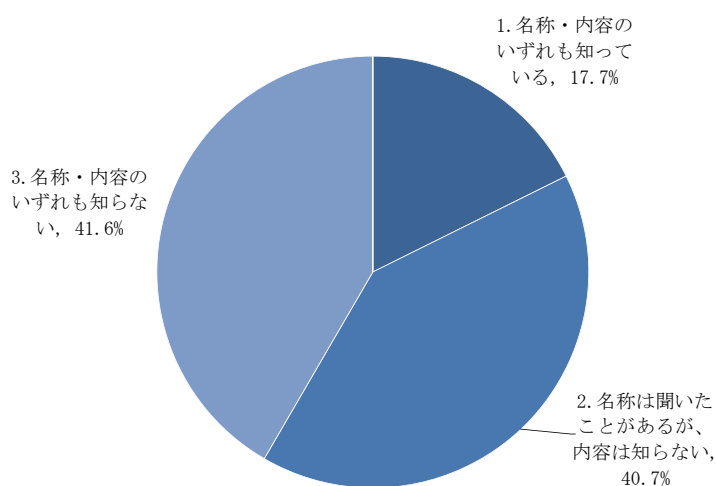
この結果から、今後、若い世代から年齢層の高い世代にかけての幅広い年齢層に対し、障がい者相談支援センターに対する認知度を高める方策について検討が必要であるといえます。

問4 平成24年10月1日に障害者虐待防止法（※）が施行されたことをご存知ですか。

（※）障害者虐待防止法…本法律では、平成24年10月1日から、国や地方公共団体、障害者福祉施設従事者等、使用者などに障がい者虐待の防止等のための責務を課すとともに、障がい者虐待を受けたと思われる障がい者を発見した者に対する通報義務を課すとしています。（厚生労働省HPより抜粋）

- | | | |
|-------------------------|-------|-------|
| 1. 名称・内容のいずれも知っている | 17.7% | 【62】 |
| 2. 名称は聞いたことがあるが、内容は知らない | 40.7% | 【143】 |
| 3. 名称・内容のいずれも知らない | 41.6% | 【146】 |

n = 351



【分析・コメント】

「知らない」と回答された方は、「名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」(40.7%)と「名称・内容のいずれも知らない」(41.6%)を合わせるとは約8割程度を占めています。

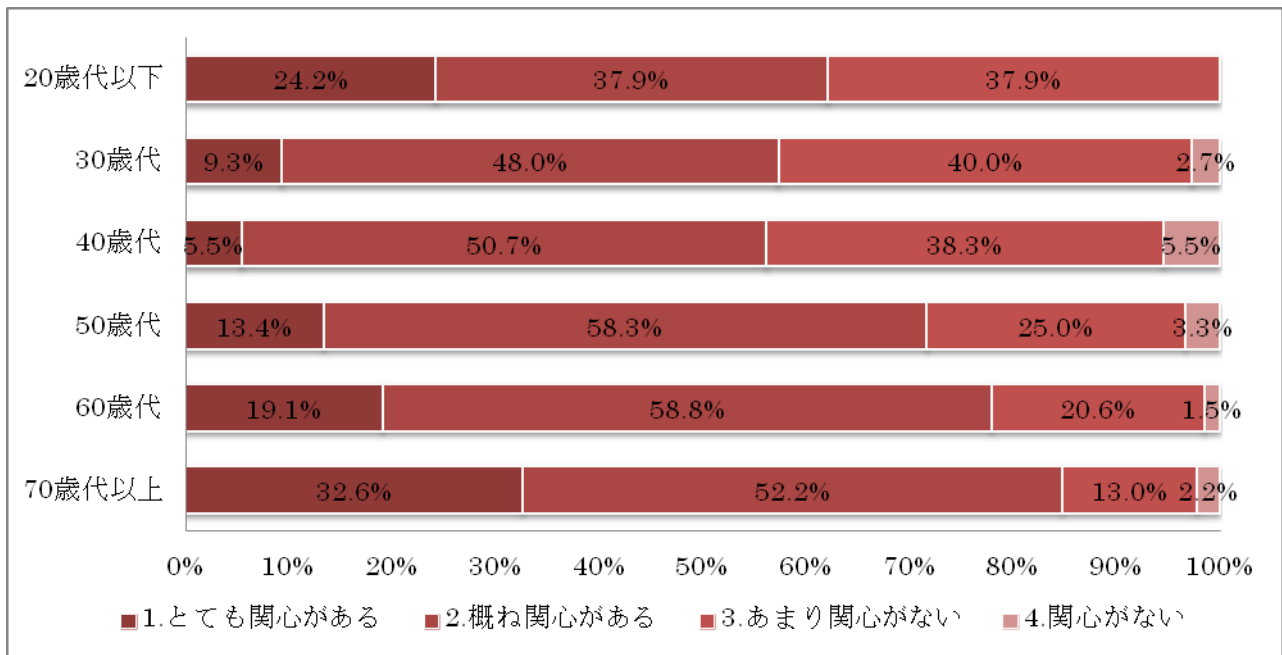
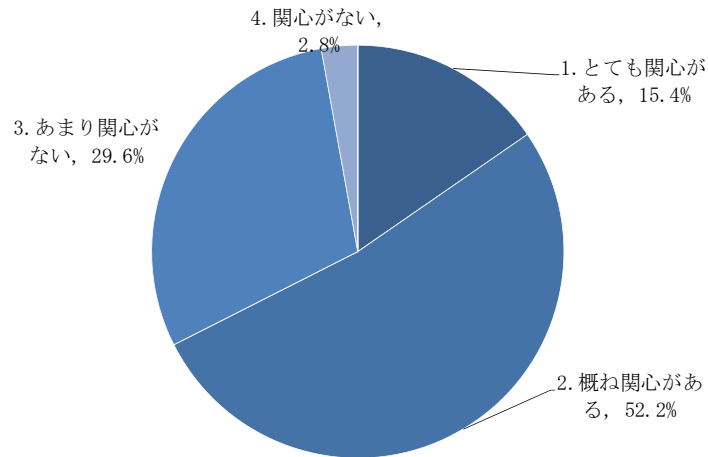
一方、「名称・内容のいずれも知っている」と回答された方は、全体の約2割以下(17.7%)にとどまっていて、年齢層ごとに見てみると、比較的高い割合を占めている20歳代以下(24.1%)及び70歳代以上(32.6%)を除いて、年齢層が下がるにつれてその割合が低くなっています(60歳代：19.2%、50歳代：18.3%、40歳代：11.0%、30歳代：10.7%)。

この結果から、今後、若い世代から年齢層の高い世代にかけて幅広い年齢層に対し、障がい者虐待防止法に対する認知度を高める方策について検討が必要であるといえます。

問5 地域における福祉の取組に関心がありますか。

1. とても関心がある	15.4%	【54】
2. 概ね関心がある	52.2%	【183】
3. あまり関心がない	29.6%	【104】
4. 関心がない	2.8%	【10】

n = 351



【分析・コメント】

地域における福祉の取組に対して、全体の 5 割以上の方が「概ね関心がある」(52.2%) と回答されており、「とても関心がある」(15.4%) を合わせると、約 7 割 (67.6%) の方が関心をお持ちであることが分かりました。

年齢層ごとに見てみると、20 歳代以下では「とても関心がある」と「概ね関心がある」と回答された方を合わせると 62.1% (24.2%と 37.9%) を占めており、50 歳代 [71.7% (13.4%と

58.3%〕に次いで高いことから20歳代以下を除き、年齢層が上がるにつれて高くなる傾向があります〔30歳代では57.3%（9.3%と48.0%）、40歳代では56.2%（5.5%と50.7%）、60歳代では77.9%（19.1%と58.8%）、70歳代以上では84.8%（32.6%と52.2%）〕。

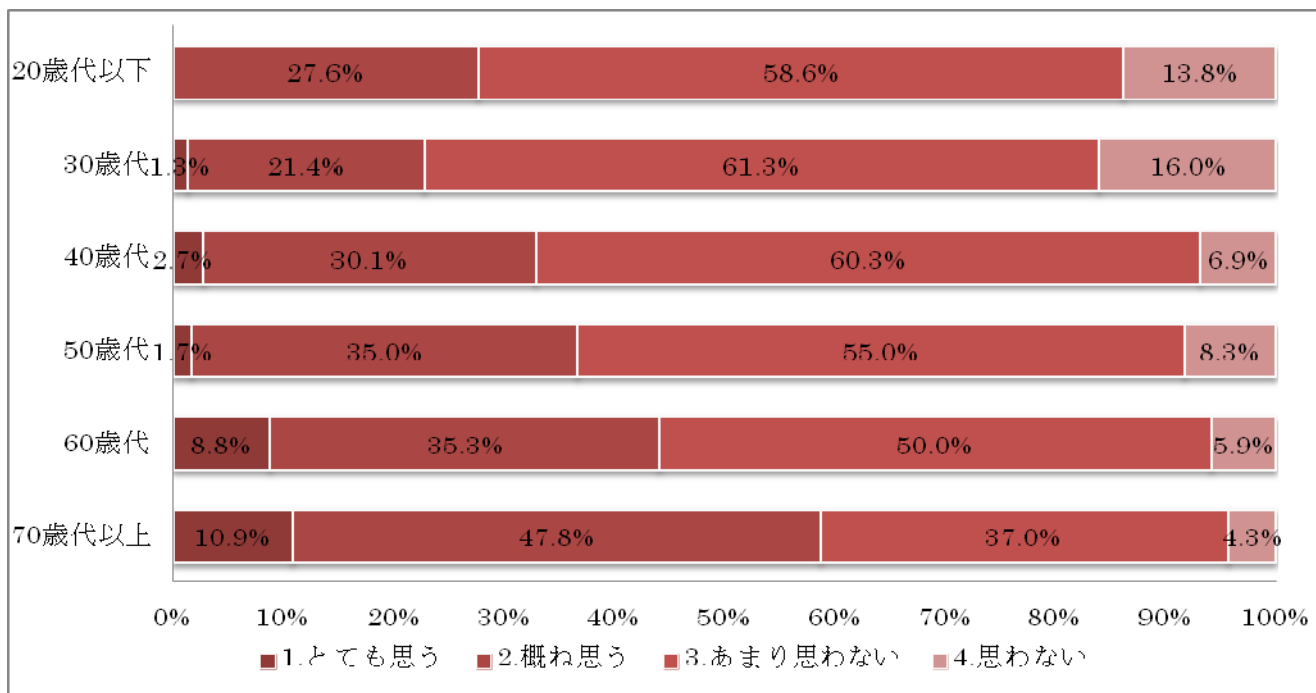
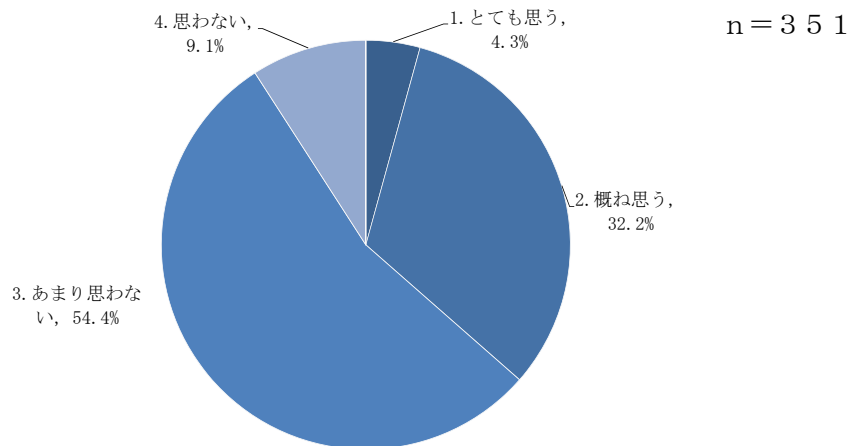
また、「あまり関心がない」と「関心がない」と回答された方を合わせると、20歳代以下では37.9%（37.9%と0%）を占めており、50歳代〔28.3%（25.0%と3.3%）〕に次いで低いことから、20歳代以下を除き、年齢層が上がるにつれて低くなる傾向があります〔30歳代では42.7%（40.0%と2.7%）、40歳代では43.8%（38.3%と5.5%）、60歳代では22.1%（20.6%と1.5%）、70歳代以上では15.2%（13.0%と2.2%）〕

この結果から、子育て世代や働き盛りの世代においては、自身の生活以外に余裕が持てず、なかなか地域に目を向けることが難しい状況がうかがえます。

今後、地域福祉の取組を推進するためには若年世代の力は不可欠であり、より多くの参画を得るため、区民生活に身近な問題を検討し推進する必要があるといえます。

問6 此花区では、地域福祉に関して、地域で話し合いや取組みが行われていると思いますか。

- 1. とても思う 4. 3% 【15】
- 2. 概ね思う 32. 2% 【113】
- 3. あまり思わない 54. 4% 【191】
- 4. 思わない 9. 1% 【32】



【分析・コメント】

全体の 5 割以上の方が「あまり思わない」（54.4%）と回答されており、「思わない」（9.1%）と合わせると、5 人に 3 人以上（63.5%）が「思わない」と回答されています。逆に、「とても思う」と「概ね思う」を合わせた割合は約 3 割強となりました（36.5%）（4.3%と 32.2%）。

年齢層ごとに見てみると、20歳代以下では、「思う」と回答された方は、「とても思う」と「概ね思う」を合わせると27.6%（0%と27.6%）、30歳代では22.7%（1.3%と21.4%）、40歳代では32.8%（2.7%と30.1%）、50歳代では36.7%（1.7%と35.0%）、60歳代では44.1%（8.8%と35.3%）、70歳代以上では58.7%（10.9%と47.8%）となっています。

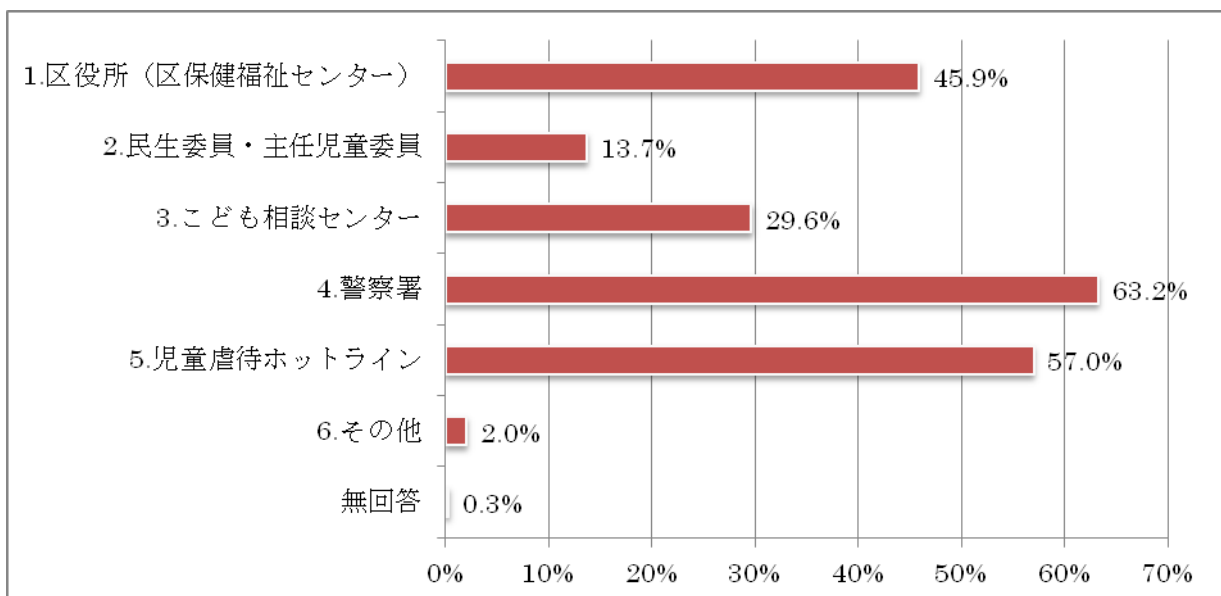
また、「思わない」と回答された方は、「あまり思わない」と「思わない」を合わせると、20歳代以下では72.4%（58.6%と13.8%）、30歳代では77.3%（61.3%と16.0%）、40歳代では67.2%（60.3%と6.9%）、50歳代では63.3%（55.0%と8.3%）、60歳では55.9%（50.0%と5.9%）、70歳代以上では41.3%（37.0%と4.3%）となっており、70歳代以上を除き、「思う」と回答された方の割合が「思わない」と回答された方の割合を下回っています。

この結果から、今後、60歳代以下の世代に対する福祉に関する地域での話し合いや取組への関心を高めるための方策の検討及び推進が必要であることがわかりました。

問7 あなたのまわりに「虐待かもしれないと思われる子ども」がいたら、どこに連絡されますか。(複数回答可)

1. 区役所（区保健福祉センター）	45.9%	【161】
2. 民生委員・主任児童委員	13.7%	【48】
3. こども相談センター	29.6%	【104】
4. 警察署	63.2%	【222】
5. 児童虐待ホットライン	57.0%	【200】
6. その他	2.0%	【7】
無回答	0.3%	【1】

n = 351



【分析・コメント】

「虐待かもしれないと思われる子ども」がいた場合の連絡先として、「警察署」（63.2%）、「児童虐待ホットライン」（57.0%）、「区役所（区保健福祉センター）」（45.9%）の割合がとくに高く、一方、「こども相談センター」（29.6%）の割合が3割弱とやや低く、「民生委員・主任児童委員」（13.7%）は一番低い割合となりました。

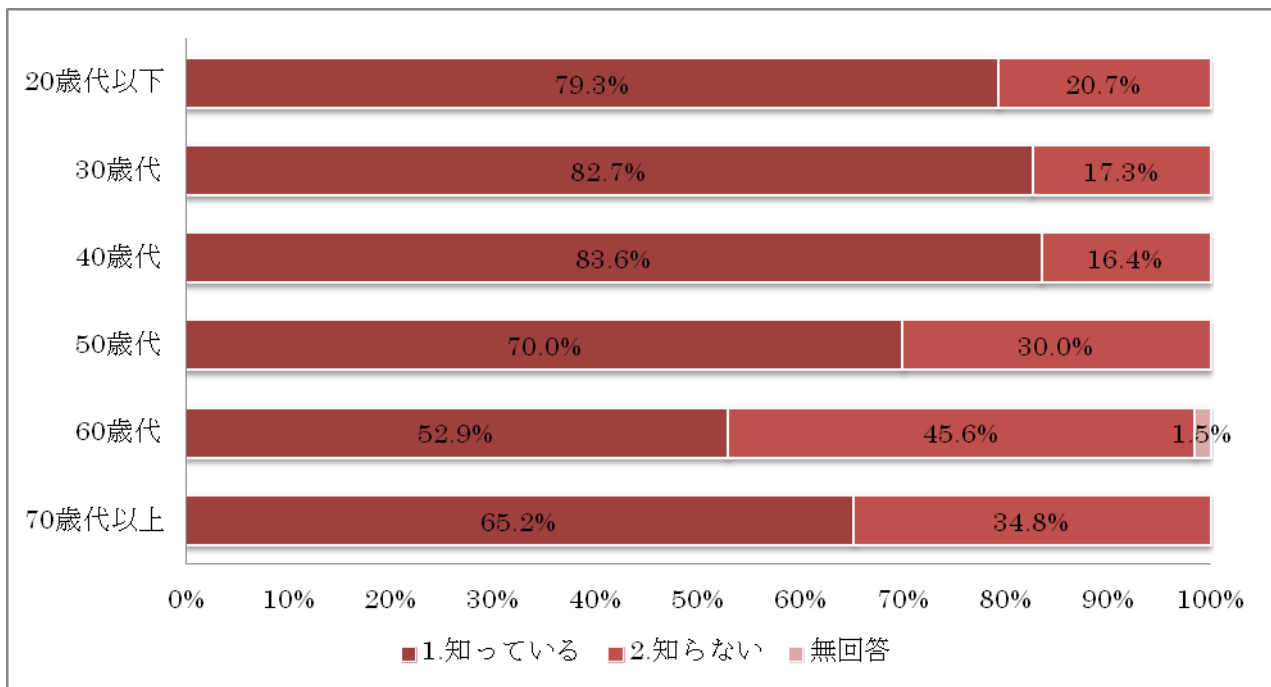
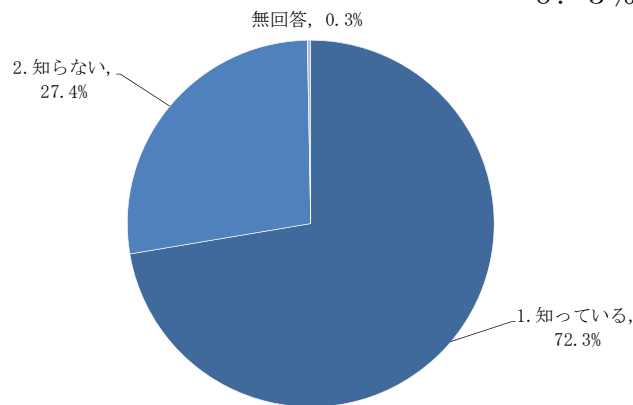
この結果から、今後は民生委員や主任児童委員の認知度も高めながら、地域住民とともに此花区の児童虐待防止にかかる体制強化を進めていくことが必要であることがわかりました。

問8 児童虐待ホットライン（※）をご存知ですか。

（※）児童虐待ホットライン…子どもへの虐待に関する通告や相談を 24 時間フリーダイヤルで受付しています。（TEL 0120-01-7285 24 時間、365 日対応です。）

1. 知っている	72.3%	【254】
2. 知らない	27.4%	【96】
無回答	0.3%	【1】

n = 351



【分析・コメント】

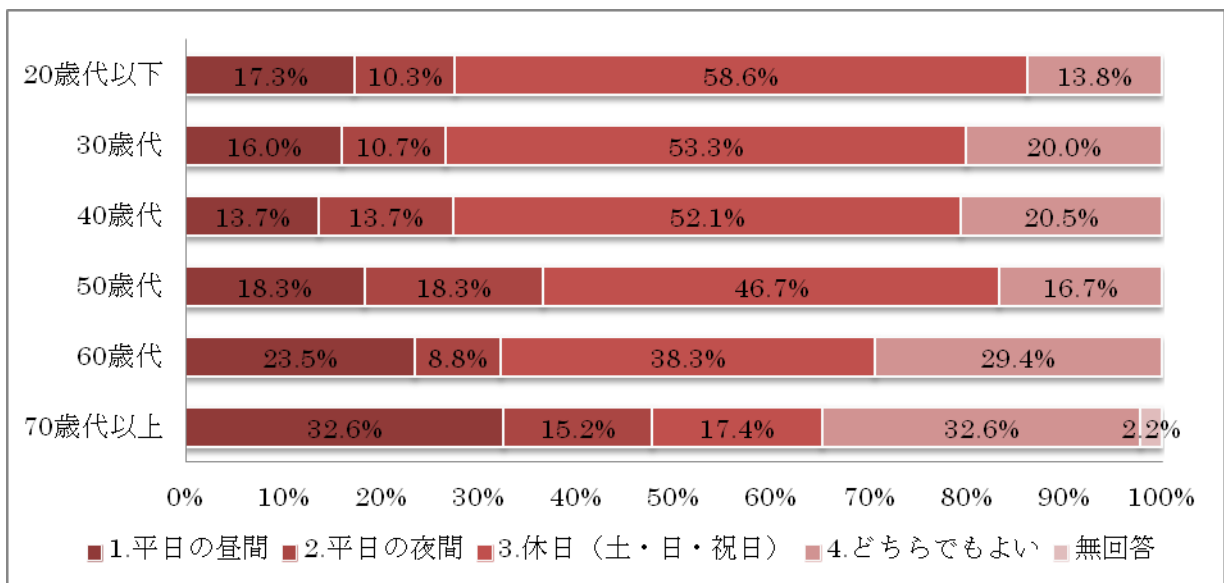
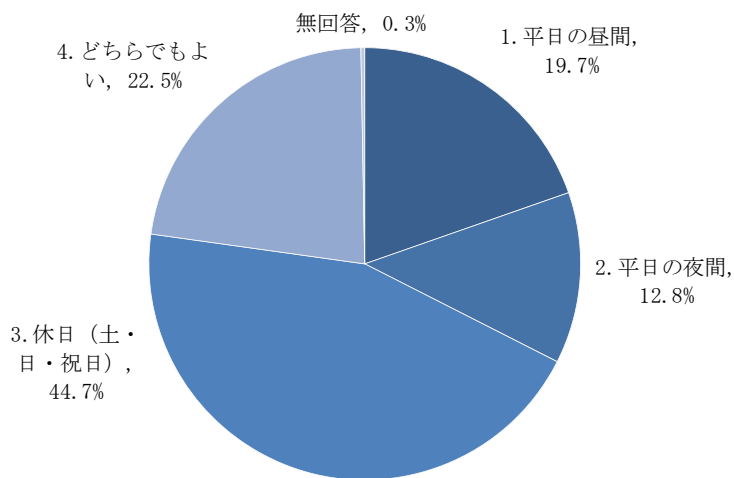
「知っている」(72.3%)と回答された方の割合は「知らない」(27.4%)と回答された方の割合を大きく上回りました。

この結果から、「児童虐待ホットライン」については、子育て世代の8割前後の方にその存在を知っていただいております。認知度は高い傾向にあるといえますが、子育てを離れた世代においてはその存在を知らない方も多いため、更なる周知及び啓発が必要であることがわかりました。

問9 平成24年度から、此花区では児童虐待防止や予防についての「講演会」や「子育て学習会」を開催するなど、児童虐待防止に取り組んでいます。開催にあたり、平日または休日、どちらが参加しやすいですか。

1. 平日の昼間	19.7%	【69】
2. 平日の夜間	12.8%	【45】
3. 休日（土・日・祝日）	44.7%	【157】
4. どちらでもよい	22.5%	【79】
無回答	0.3%	【1】

n = 351



【分析・コメント】

「休日（土・日・祝日）」(44.7%)が最も高く、「平日の夜間」(12.8%)が最も低い割合となりました。また、2割以上の方が「どちらでもよい」(22.5%)と回答されています。

年齢層ごとに見てみると、20歳代以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代の世代において、

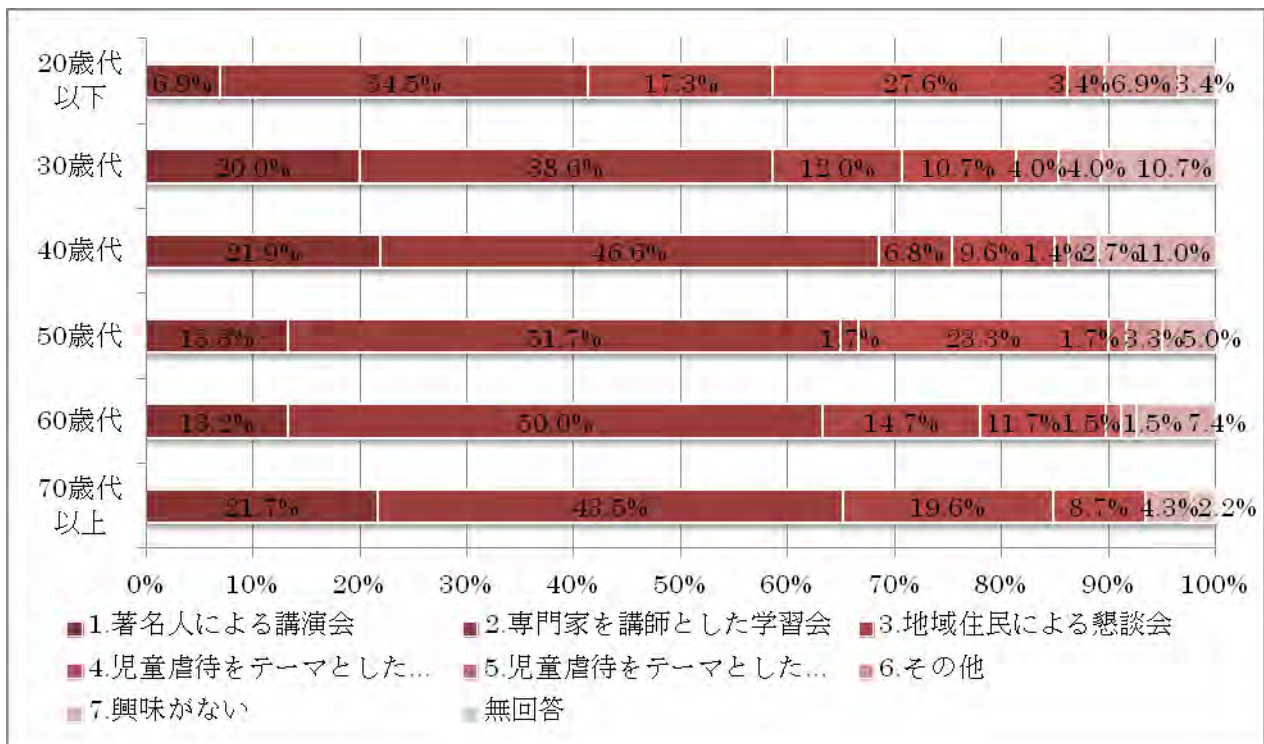
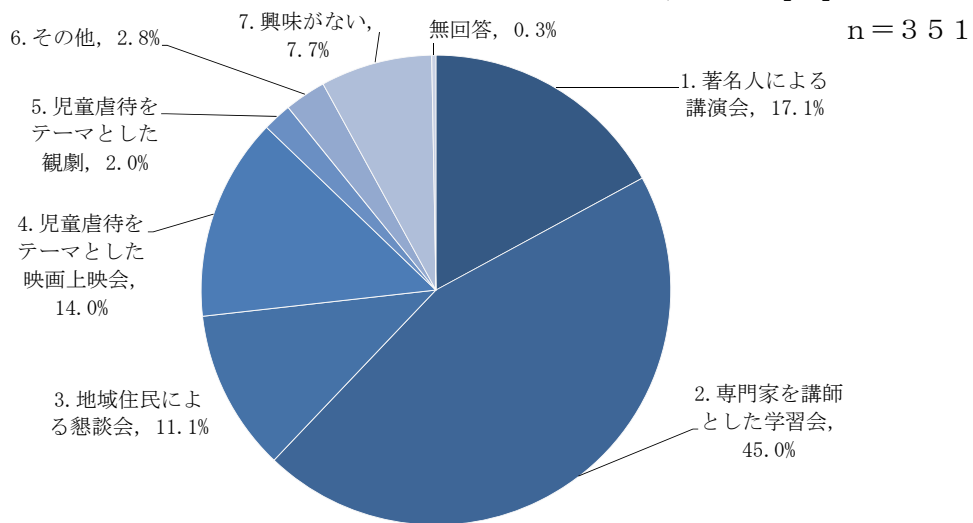
「休日（土・日・祝日）」と回答された方の割合が最も高くなっています（20歳代以下：58.6%、30歳代：53.3%、40歳代：52.1%、50歳代：46.7%、60歳代：38.3%）。

児童虐待防止や予防の取組みについては住民への啓発等が大変重要です。

この結果を踏まえ、講演会や学習会等の開催にあたっては効果的な開催日時の設定等、多くの方が参加しやすいものとなるよう企画し実施する必要があるといえます。

問10 今後、「児童虐待防止の取組み」の実施にあたって、どのような実施内容であれば参加したいと思いますか。

1. 著名人による講演会	17.1%	【60】
2. 専門家を講師とした学習会	45.0%	【158】
3. 地域住民による懇談会	11.1%	【39】
4. 児童虐待をテーマとした映画上映会	14.0%	【49】
5. 児童虐待をテーマとした観劇	2.0%	【7】
6. その他	2.8%	【10】
7. 興味がない	7.7%	【27】
無回答	0.3%	【1】



【分析・コメント】

「専門家を講師とした学習会」(45.0%)が最も高い割合を占めており、「著名人による講演会」(17.1%)、「児童虐待をテーマとした映画上映会」(14.0%)、「地域住民による懇談会」(11.1%)、「児童虐待をテーマとした観劇」(2.8%)が続いています。

年齢層ごとに見てみると、「専門家を講師とした学習会」と「著名人による講演会」について、20歳代以下では34.5%と6.9%、30歳代では38.6%と20.0%、40歳代では46.6%と21.9%、50歳代では51.7%と13.3%、60歳代では50.0%と13.2%、70歳代以上では43.5%と21.7%を占め、どの年代においても「専門家を講師とした学習会」が高くなっています。

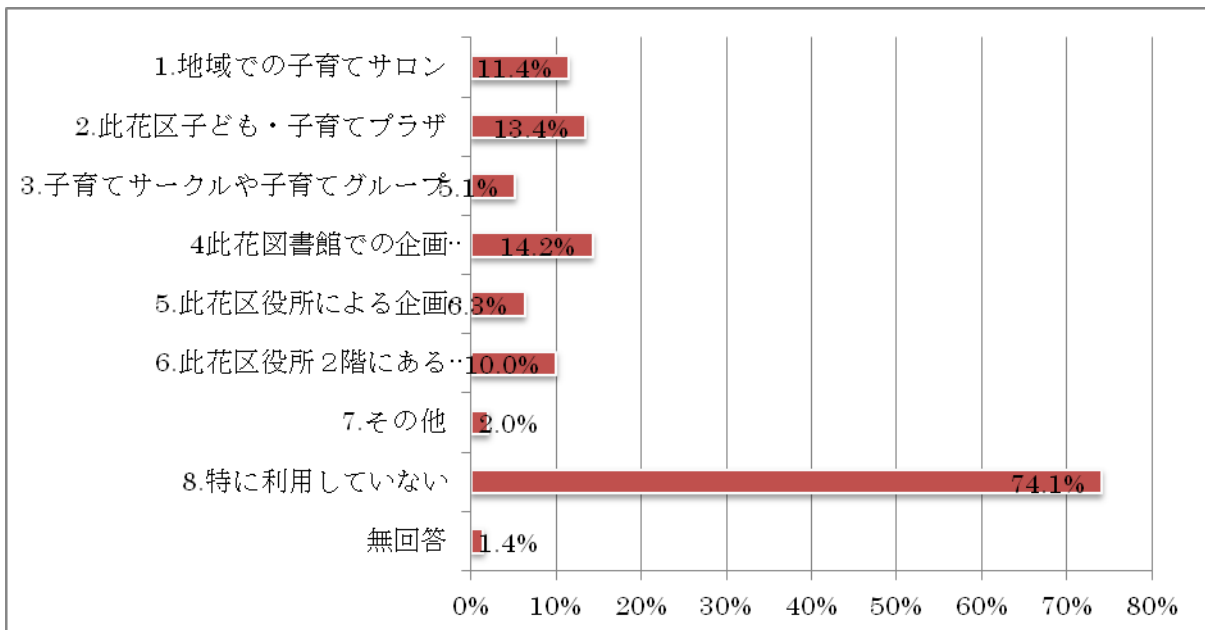
児童虐待は社会全体で解決すべき課題であり、講演会開催等による啓発の取組も重要です。

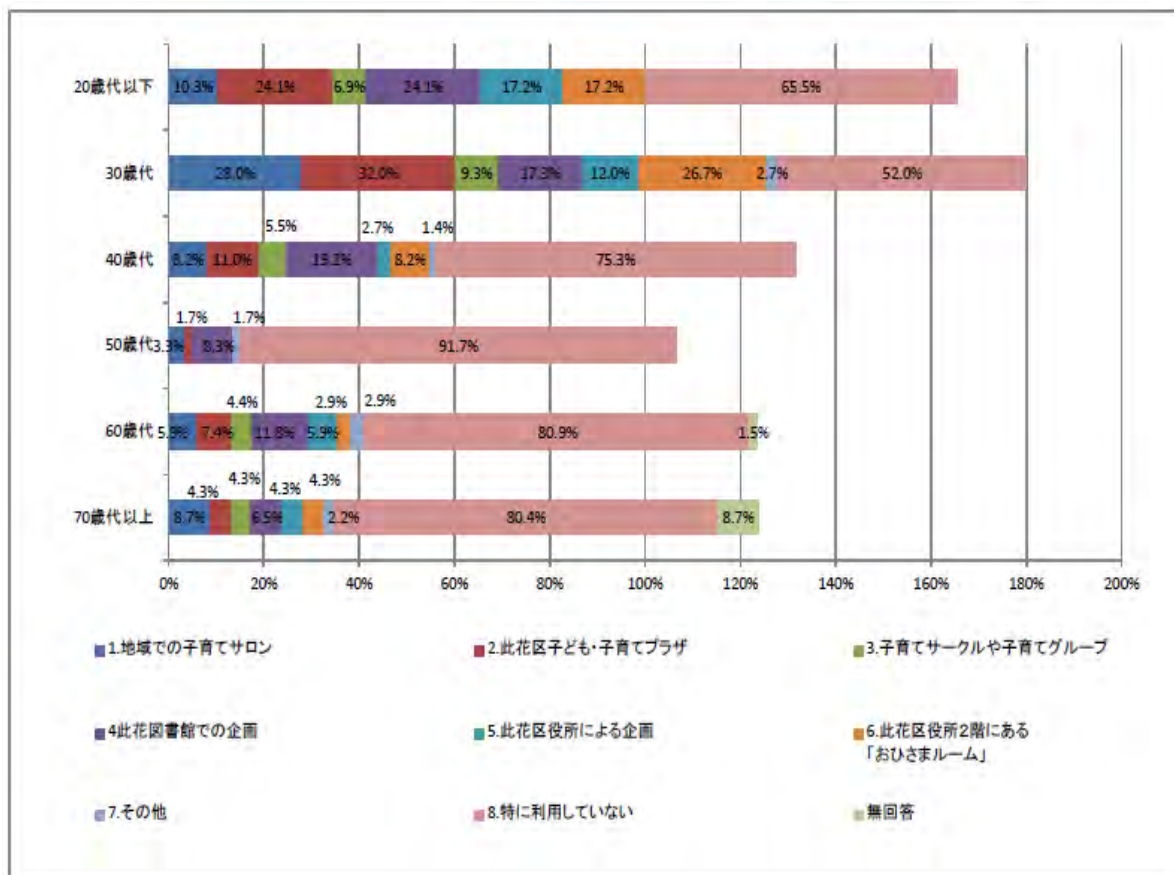
この結果から、より多くの方に参加していただける内容を企画し実施する必要があるといえます。

問11 此花区では、子育てを支援するために様々な事業を行っていますが、今まで利用したことがある事業は次のうちどれですか。(複数回答可)

1. 地域での子育てサロン	11.4%	【40】
2. 此花区子ども・子育てプラザ	13.4%	【47】
3. 子育てサークルや子育てグループ	5.1%	【18】
4. 此花図書館での企画(子ども会、絵本の時間、お楽しみ会、読書会など)	14.2%	【50】
5. 此花区役所による企画(子育て講座、「えほんの広場によっといで」など)	6.3%	【22】
6. 此花区役所2階にある「おひさまルーム」	10.0%	【35】
7. その他	2.0%	【7】
8. 特に利用していない	74.1%	【260】
無回答	1.4%	【5】

n = 351





【分析・コメント】

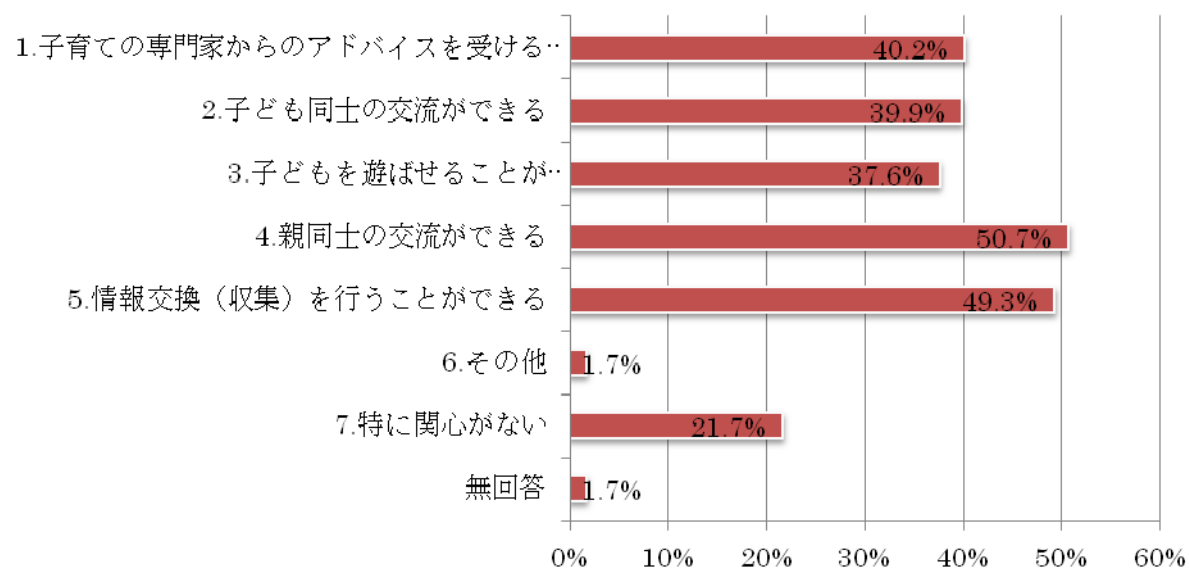
「特に利用していない」（74.1%）と回答された方の割合が全体の 7 割以上を占め、同割合について年齢層毎に見てみると、子育て世代である 20 歳代以下（65.5%）及び 30 歳代（52.0%）は他の年代に比べて比較的低くなっています（40 歳代:75.3%、50 歳代：91.7%、60 歳代：80.9%、70 歳代以上：80.4%）。

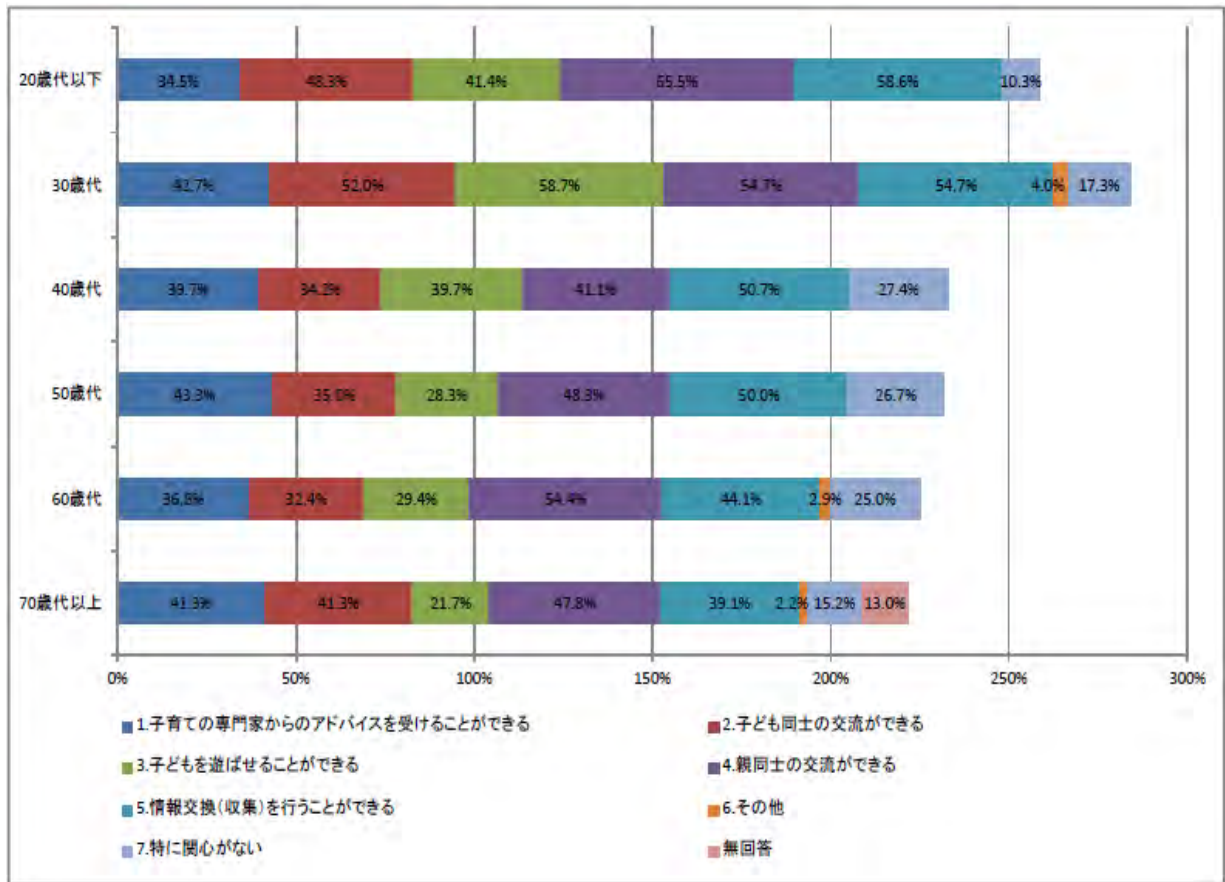
この結果から、「此花区子ども・子育てプラザ」や地域での「子育てサロン」等の利用者が多いとはいえないため、「子育て講座」や「えほんの広場によっといで」等の区役所での企画への参加も含めて更なる内容の充実を図るとともに開催の周知が必要です。

問12 地域での子育てサロンについて、どのようなことを期待しますか。(複数選択可)

1. 子育ての専門家からのアドバイスを受けることができる	40.2%	【141】
2. 子ども同士の交流ができる	39.9%	【140】
3. 子どもを遊ばせることができる	37.6%	【132】
4. 親同士の交流ができる	50.7%	【178】
5. 情報交換（収集）を行うことができる	49.3%	【173】
6. その他	1.7%	【6】
7. 特に関心がない	21.7%	【76】
無回答	1.7%	【6】

n = 351





【分析・コメント】

「親同士の交流ができる」(50.7%)、「情報交換(収集)を行うことができる」(49.3%)、「子育ての専門家からのアドバイスを受けることができる」(40.2%)、「子ども同士の交流ができる」(39.9%)、「子どもを遊ばせることができる」(37.6%)はいずれも子育てサロンの役割として期待されていることがわかりました。

また、「その他」として、「親をしつける機会」「地域住民同士のふれあい」といった回答がありました。

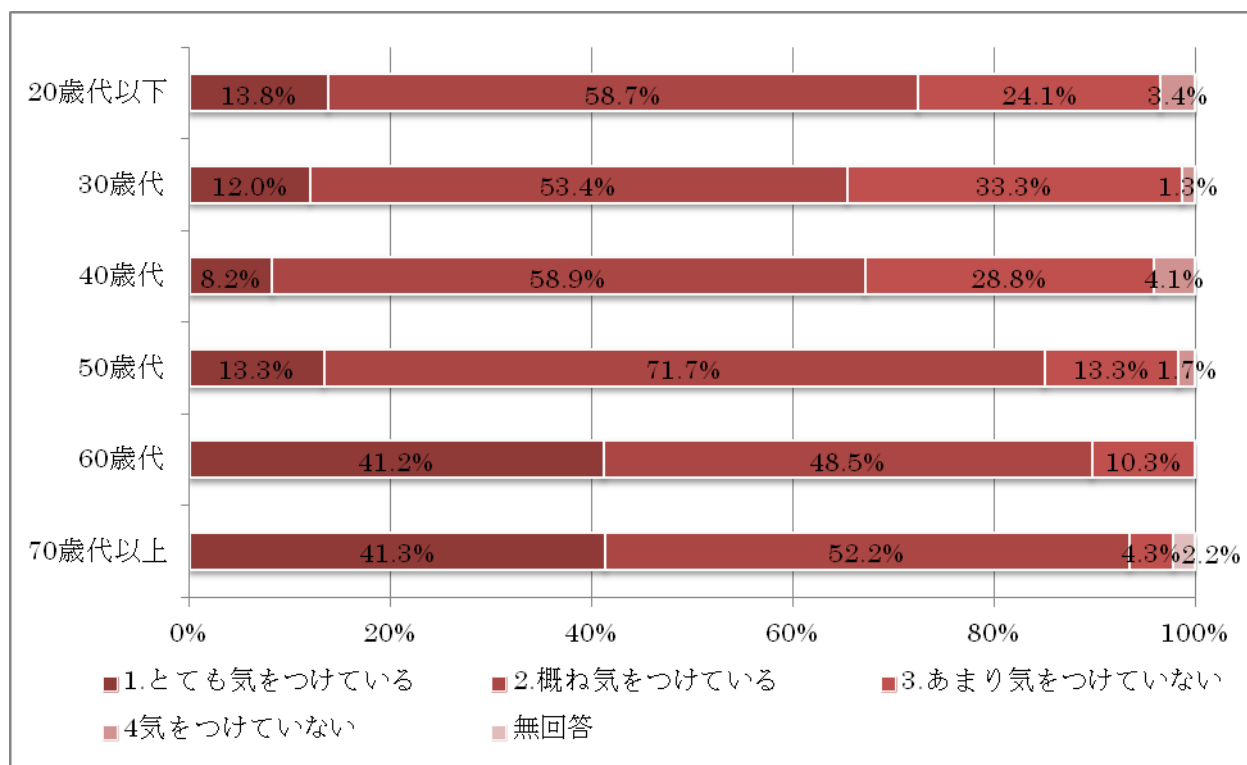
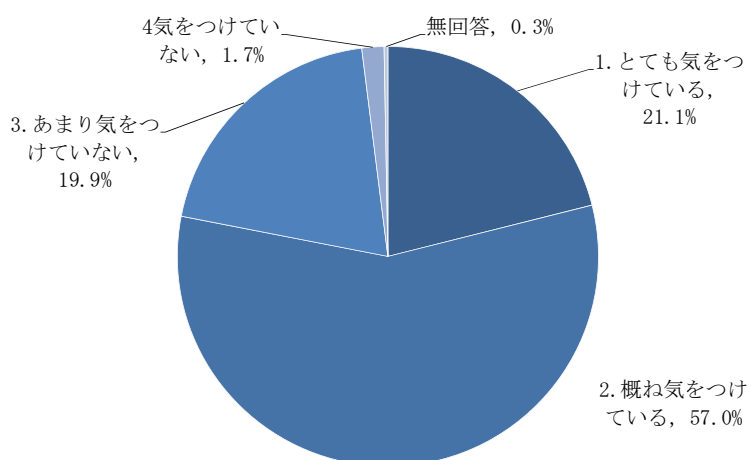
この結果から、「子育てサロン」は、地域ボランティアの参加を得て、就学前の乳幼児とその保護者が集まり一緒に遊んだり情報交換を行う場として現在8か所で開催されていますが、ご参加いただくことで子ども同士や親同士の交流の場となっていることがわかりました。このことから、より多くの方に参加していただけるよう、今後も各地域で継続して開催することが求められます。

II. 地域保健について

問1 あなたは、ご自身の健康管理に気をつけていますか。

1. とても気をつけている	21.1%	【74】
2. 概ね気をつけている	57.0%	【200】
3. あまり気をつけていない	19.9%	【70】
4. 気をつけていない	1.7%	【6】
無回答	0.3%	【1】

n = 351



【分析・コメント】

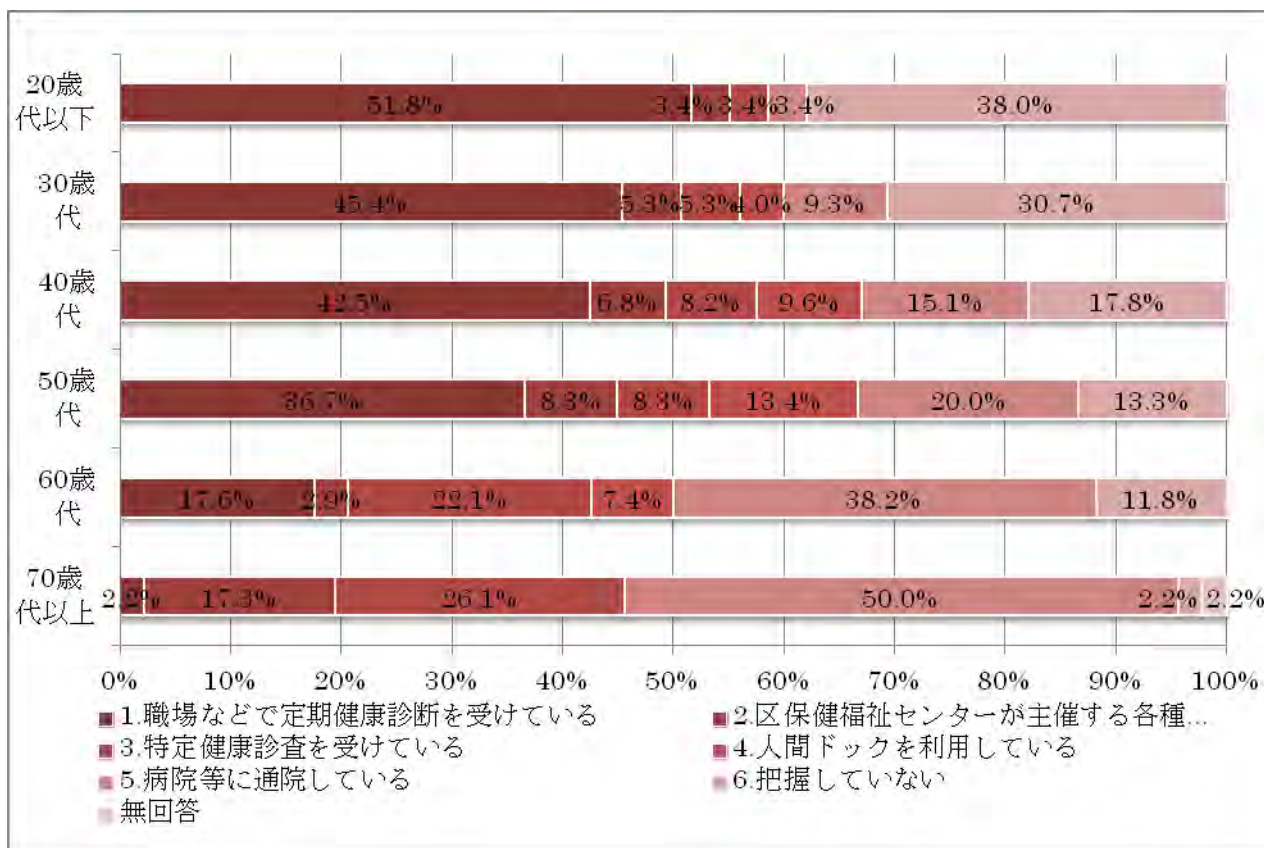
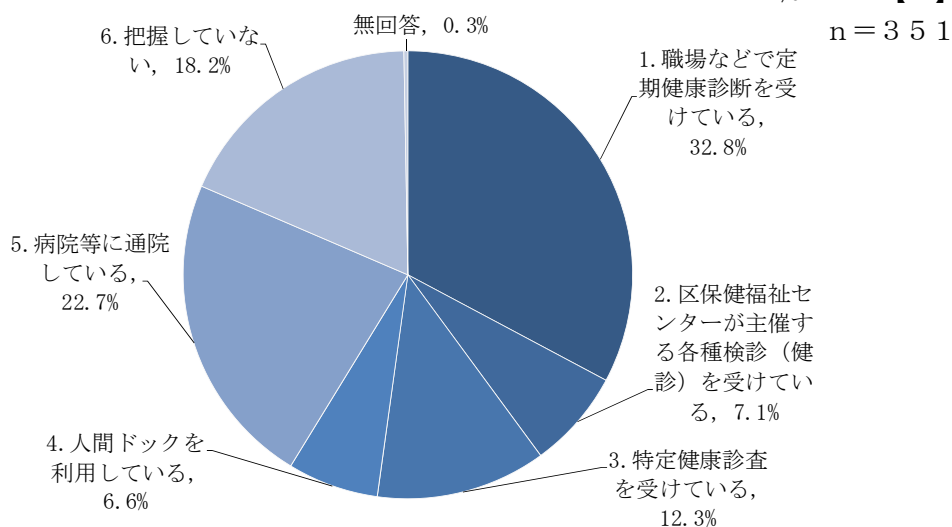
全体の 6 割近くの方が「概ね気をつけている」(57.0%) と回答されており、「とても気をつけている」(21.1%) と回答された方と合わせると、8 割近く (78.1%) の方がご自身の健康管理に気をつけている傾向があります。また、「あまり気をつけていない」(19.9%) と「気をつけていない」(1.7%) を合わせると、約 2 割の方が「気をつけていない」(21.6%) と回答されています。

年齢層毎に見てみると、20 歳代以下では、「とても気をつけている」と「概ね気をつけている」を合わせて 72.5% (13.8%と 58.7%)、30 歳代では 65.4% (12.0%と 53.4%)、40 歳代では 67.1% (8.2%と 58.9%)、50 歳代では 85% (13.3%と 71.7%)、60 歳代では 89.7% (41.2%と 48.5%)、70 歳代以上では 93.5% (41.3%と 52.2%)、また、20 歳代以下では、「あまり気をつけていない」と「気をつけていない」を合わせて 27.5% (24.1%と 3.4%)、30 歳代では 34.6% (33.3%と 1.3%)、40 歳代では 32.9% (28.8%と 4.1%)、50 歳代では 15% (13.3%と 1.7%)、60 歳代では 10.3% (10.3%と 0%)、70 歳代以上では 4.3% (4.3%と 0%) という結果となりました。どの年齢層もご自身の健康管理に気をつけていて、年齢が上がるにつれてその傾向が一層高まる傾向があります。

この結果を平成 23 年度に実施した同じ設問の結果と比較すると、自身の健康管理に気をつけている(とても気をつけている、概ね気をつけている) と回答した方の割合が 6 ポイント減少し、気をつけていない(あまり気をつけていない、気をつけていない) と回答した方の割合が 7 ポイント増加しています。特に 20 代、30 代、40 代の比較的若い世代で健康管理に気をつけていないという方の割合が高くなっており、ライフステージに応じた生活習慣の改善に向け、若い世代から自身の健康に関心をもっていただくよう健康情報の効果的な発信などについて検討し、取組みを進める必要があることがわかりました。

問2 あなたは、ご自身の健康状態を主にどのような方法で把握していますか。

1. 職場などで定期健康診断を受けている	32.8%	【115】
2. 区保健福祉センターが主催する各種検診（健診）を受けている	7.1%	【25】
3. 特定健康診断を受けている	12.3%	【43】
4. 人間ドックを利用している	6.6%	【23】
5. 病院等に通院している	22.7%	【80】
6. 把握していない	18.2%	【64】
無回答	0.3%	【1】



【分析・コメント】

ご自身の健康状態を把握するための方法について、全体の約 3 割以上の方が「職場などで定期健康診断を受けている」(32.8%)と回答されており、続いて約 2 割以上の方が「病院等に通院している」(22.7%)、約 1 割以上の方が「特定健康診査を受けている」(12.3%)と回答されています。また、「区保健福祉センターが主催する各種検診(健診)を受けている」(7.1%)、「人間ドックを利用している」(6.6%)と回答された方はそれぞれ 1 割未満でした。一方で 2 割近くの方が「把握していない」(18.2%)と回答されており、8 割以上の方が何らかの方法でご自身の健康状態を把握されていることが分かりました。

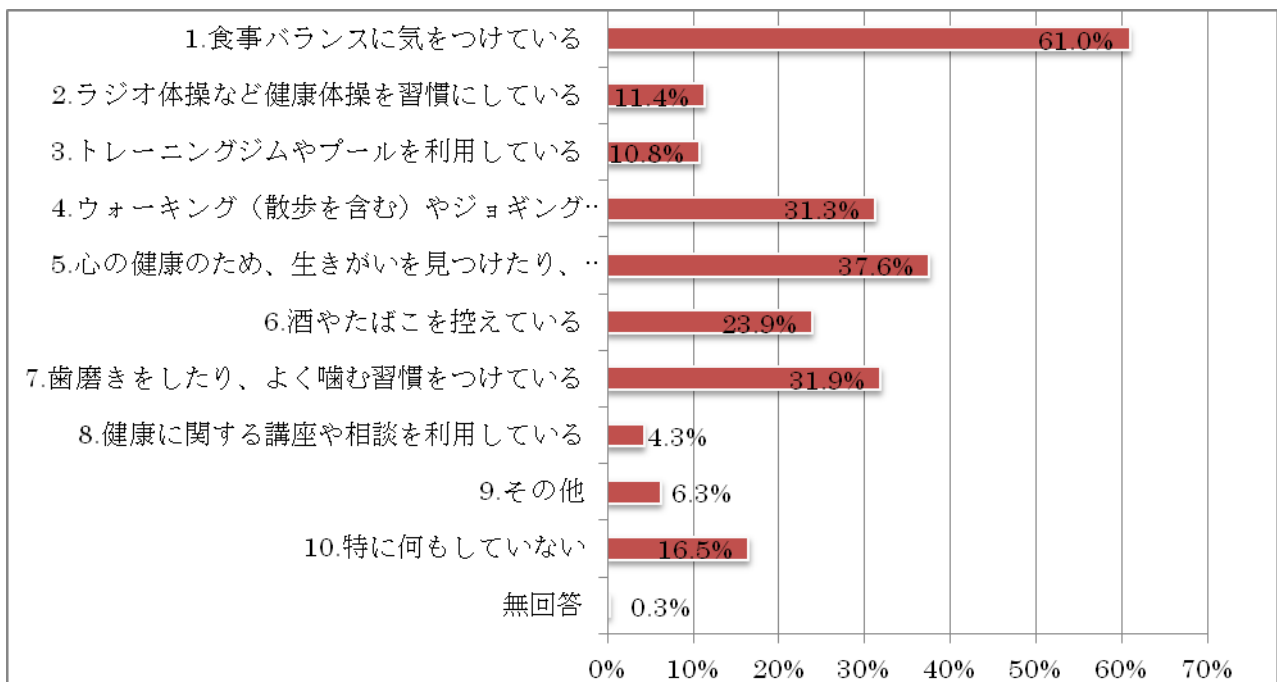
また、「把握していない」について、年齢層ごとに見てみると、20 歳代以下及び 30 歳代が他の年代と比較して高いことがわかりました(20 歳代以下: 38.0%、30 歳代: 30.7%)。

この結果から、今後、壮年期死亡の原因となっているがんや生活習慣病の減少、重症化予防を図るために地域、職域、医療におけるがん検診・特定健診の受診率向上に取り組むとともに区の健康課題についての情報発信を効果的に進め、健康保持や健康づくりについて主体的に取り組んでいただくような環境整備も大切な課題であることがわかりました。

問3 健康づくりのために、具体的に取り組んでいる（心がけている）ことは何ですか。
（複数回答可）

1. 食事バランスに気をつけている	61.0%	【214】
2. ラジオ体操など健康体操を習慣にしている	11.4%	【40】
3. トレーニングジムやプールを利用している	10.8%	【38】
4. ウォーキング（散歩も含む）やジョギングをしている	31.3%	【110】
5. 心の健康のため、生きがいを見つけたり、人との交流を大切にしている	37.6%	【132】
6. 酒やたばこを控えている	23.9%	【84】
7. 歯磨きをしたり、よく噛む習慣をつけている	31.9%	【112】
8. 健康に関する講座や相談を利用している	4.3%	【15】
9. その他	6.3%	【22】
10. 特に何もしていない	16.5%	【58】
無回答	0.3%	【1】

n = 351



【分析・コメント】

全体の6割以上の方が「食事バランスに気をつけている」（61.0%）と回答されており、食生活に対する関心度の高さがうかがえます。続いて4割近くの方が「心の健康のため、生きがいを見つけたり、人との交流を大切にしている」（37.6%）と回答され、3割以上の方が「歯磨きをしたり、よく噛む習慣をつけている」（31.9%）、「ウォーキング（散歩も含む）やジョギングをしている」（31.3%）と回答されています。

健康づくりのために、具体的に取り組んでいる方の割合が高い傾向にある一方で、「特に何もしていない」（16.5%）と回答された方も1割以上おられます。

「特に何もしていない」と回答された方を年齢層毎に見てみると、20歳代以下では13.8%、

30 歳代では 24.0%、40 歳代では 26.0%、50 歳代では 20.0%、60 歳代では 7.4%、70 歳代以上では 0.0%という結果となり、とくに 30 歳代、40 歳代の方の割合が他の年齢層に比べてやや高いことが分かりました。

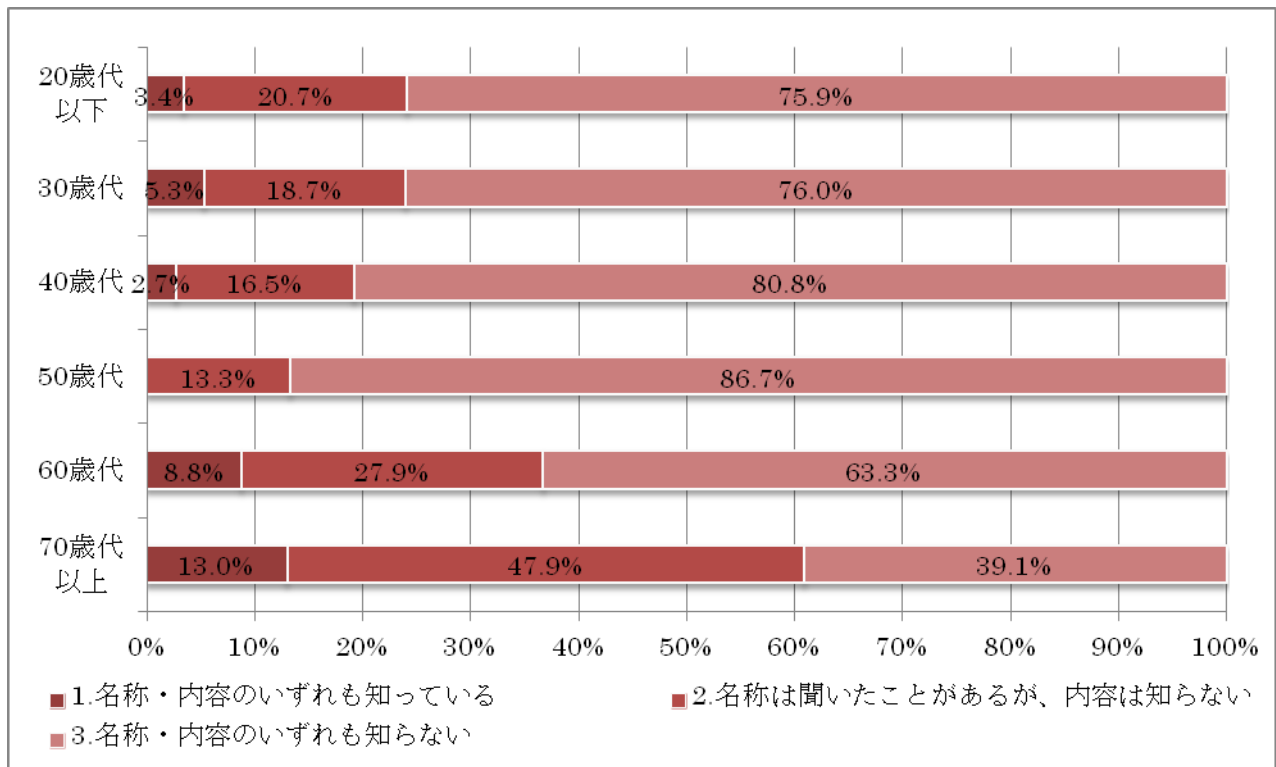
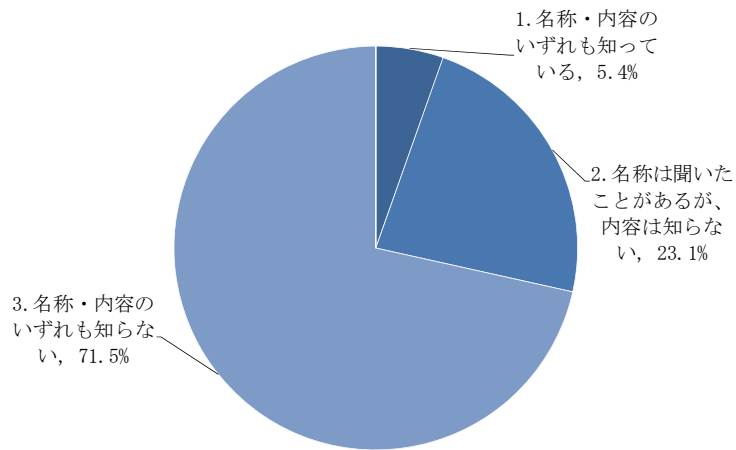
がんや循環器疾患の発症予防のためには健康的な生活習慣を形成していくことも大切です。

この結果から、禁煙、適切な飲酒習慣、食習慣、運動習慣等が生活習慣病予防につながることを地域での健康教育や各種講座開催等により幅広く啓発していくことが必要であることがわかりました。

問4 区役所が実施している「このはないいききポイント事業」をご存知ですか。

- | | | |
|---------------------------|-------|-------|
| 1. 名称・事業内容のいずれも知っている | 5.4% | 【19】 |
| 2. 名称は聞いたことはあるが、事業内容は知らない | 23.1% | 【81】 |
| 3. 名称・事業内容にいずれも知らない | 71.5% | 【251】 |

n = 351



【分析・コメント】

全体の約7割の方が「名称・内容のいずれも知らない」(71.5%)と回答されており、「名称は聞いたことはあるが、内容は知らない」(23.1%)と合わせると、9割以上(94.6%)の方が内容を知らない傾向があります。

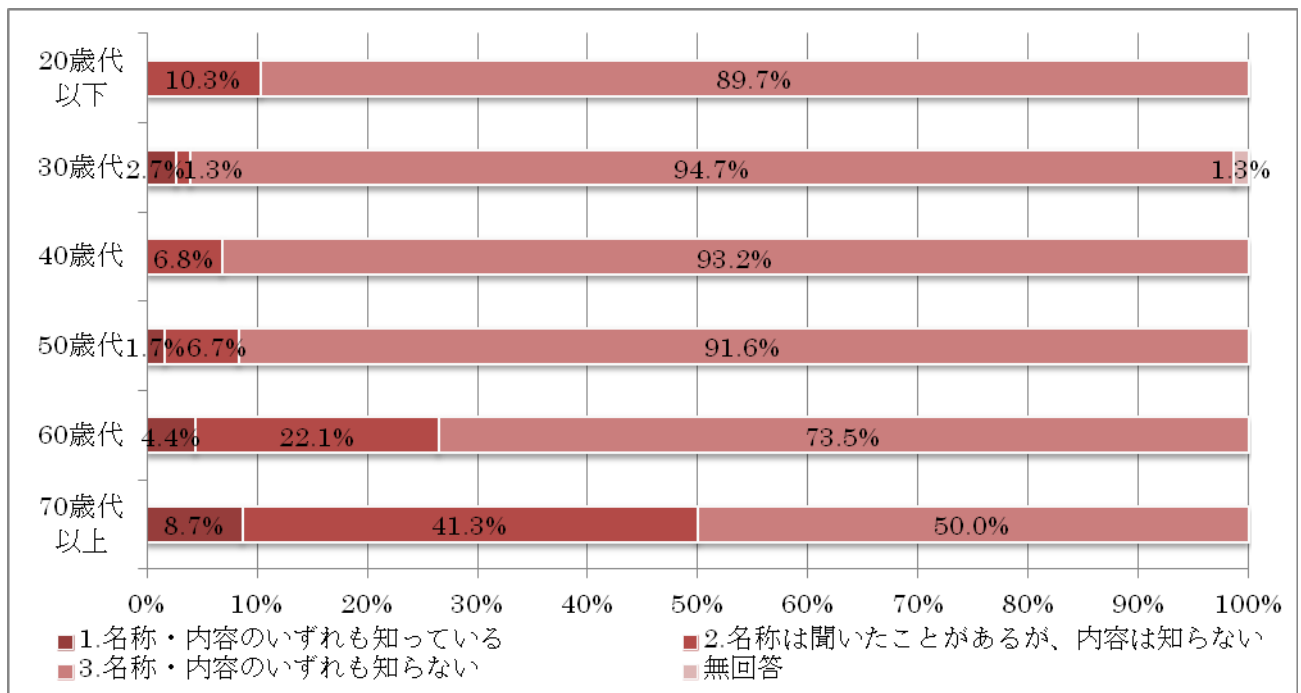
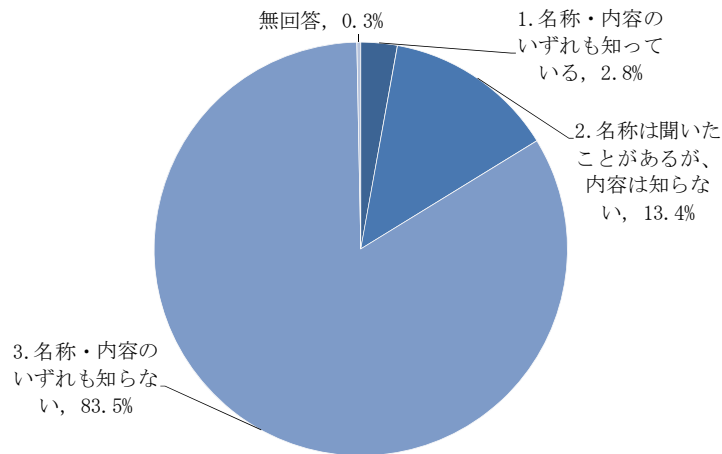
なお、年齢層毎に回答状況を見てみると、60歳代（63.3%）、70歳代以上（39.1%）の高齢世代のほうが、20歳代以下（75.9%）、30歳代（76.0%）、40歳代（80.8%）、50歳代（86.7%）の比較的若い世代よりも、「名称・活動内容のいずれも知らない」の割合が低くなっています。

この結果から、今後、「このはないきいきポイント事業」を活用してより多くの区民の方に健康づくりを行っていただけるよう、講座などを開催し、広く区民に浸透するよう取り組んでいく必要があることがわかりました。

問5 区役所が実施している、健康体操「あしたも笑顔」をご存知ですか。

1. 名称・内容のいずれも知っている	2. 8%	【10】
2. 名称は聞いたことはあるが、内容は知らない	13.4%	【47】
3. 名称・内容のいずれも知らない	83.5%	【293】
無回答	0.3%	【1】

n = 351



【分析・コメント】

全体の約8割以上の方が「名称・内容のいずれも知らない」(83.5%)と回答されており、「名称は聞いたことはあるが、内容は知らない」(13.4%)と合わせると、9割以上(96.9%)の方が内容を知らない傾向にあります。

なお、年齢層毎に回答状況を見ると、「名称・内容のいずれも知らない」について、20歳代以

下、30歳代、40歳代、50歳代はいずれも約9割を占めており、60歳代を超えるとその割合はやや低いことが分かりました〔60歳代（73.5%）、70歳代以上（50.0%）〕。

健康体操「あしたも笑顔」は高齢者の介護予防、閉じこもり予防を地域で推進するため、地域関係機関の協力を得て、高齢者食事サービス事業など高齢者が多く集まる場所で実施をしています。そのような要因で、50歳代以下で「知っている」と回答した方の割合が低いと考えられます。ただし、60歳代、70歳代においても、それぞれ26.5%、50%となっています。

この結果から、今後、実施地域を増やすとともに、広く区民に浸透するように取組を進める必要があることがわかりました。